



環境報告書 **2018**



集計対象期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)

対象事業所

<国内事業所>

八千代工業

本社および柏原工場(埼玉県狭山市)
鈴鹿工場(三重県鈴鹿市)
亀山事業所(三重県亀山市)
栃木研究所(栃木県さくら市)
埼玉研究所(埼玉県狭山市)
四日市製作所(三重県四日市市)^{※1}

※1 2018年3月から子会社 八千代工業四日市製作所株式会社となり、
2018年4月に事業譲渡しました。本報告書には「四日市製作所」と記述しています。

国内子会社

合志技研工業株式会社(熊本県合志市)
株式会社ウエムラテック(熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市)
株式会社合志テック(熊本県合志市)

<海外事業所>

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド(米国)
エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド(米国)
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド(米国)
ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー(米国)
ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー プイ(メキシコ)
ヤチヨ ブラジル インダストリア エコメルシオ デ ペサス リミターダ(ブラジル)
八千代工業(中山)有限公司(中国)
八千代工業(武漢)有限公司(中国)
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド(タイ)
ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド(インド)
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア(インドネシア)

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド(タイ)
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド(ベトナム)
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド(インド)
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド(フィリピン)

<対象としていない子会社および関連会社>

- 対象期間における事業活動を行っていません。
ヤチヨ インダストリー (ユーケー) リミテッド(英国)^{※2}
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド(フィリピン)
※2 2018年5月 清算終了
- 事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー (ドイツ)

目次

トップメッセージ	03
環境トピックス	04
ヤチヨ環境基本方針／環境マネジメント体制	05
気候変動への取り組み	05
省エネルギー／マテリアルフロー	06
オゾン層保護・地球温暖化への対応	07
汚染防止対策／法規制への対応	07
2017年度 環境目標および実績	08
2018年度 環境目標	09
環境マネジメントシステム／環境教育	09
地域セグメントごとの環境データ推移	10
すべての事業所のエネルギーと廃棄物量	12

発行サイクル

年度1回(前回発行:2017年10月13日)

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」および「GRIスタンダード(サステナビリティ報告ガイドライン)」。

■環境情報の公開

ヤチヨは、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト 「環境への取り組み」
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/csr/eco/>



トップメッセージ

社会からその存在を認められ、 期待される企業を目指して



埼玉県狭山市の柏原工場前にて

私たちヤチヨグループは、地球資源を利用し恩恵を享受しながら事業活動を行っているからこそ、持続可能な社会の実現を目指し、サステナビリティへの取り組みを企業の最も重要な使命の一つと捉えています。

このような考えのもと、ヤチヨグループは、製品の軽量化、材料リサイクルの促進、材料ロスの低減、製造工程の効率化などによって、環境に配慮した製品づくりを行っており、積極的に環境活動に取り組んでいます。

代表取締役社長

山口次郎

いま、私たちを取り巻く環境は、想像を超えるスピードで変化を続けており、自動車業界においては、電動化や自動運転などの革新技术が目覚ましく進化しています。ヤチヨグループは、このような時代変化も見据えながら、将来にわたる成長を目指して事業活動を行っています。

そのような中、私たちは、環境規制に対応した世界トップクラスの性能を有する樹脂製燃料タンクの量産を拡大しており、今後の電動車のさらなる発展に向けては、プラグインハイブリッド車用の高圧密閉型の樹脂製燃料タンクや高圧水素容器の開発を進めるなど、環境対応に力を入れています。これらの製品や技術を磨きながら、サステナビ

リティへの取り組みを中期事業方針における重点施策の一つとしてさらに強化し、より一層、地球環境に寄り添った企業活動を継続しています。

世界に目を向けると、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標SDGsが、浸透し始めています。私たちは、その意志に共感し、事業活動そのものによって世の中に価値をお届けし、社会とともに歩んでいきたいと考えています。

今後、気候変動などの環境課題は、より重視していかなければなりません。これからもヤチヨグループは、企業理念のもと、世界のすべての人にとって喜びにあふれる事業運営を行ってまいります。

環境トピックス

● 樹脂製燃料タンク

ヤチヨは、4種6層の樹脂製燃料タンクを日本で初めて量産化しました。クルマを軽量化して燃費の向上に寄与しながら、排ガス蒸散規制に対応するなど、地球環境に配慮した製品づくりを行っています。

タンクボディーの成形における端材をリサイクル層に再利用する製品設計を基本とし、タンクボディーの肉厚をCAE※1によって最適化、さらに高剛性の原材料を素材メーカーとともに開発するなど、薄肉軽量化を進めています。



Hondaの新型シビックに採用された樹脂製燃料タンクでは、樹脂製フューエルフィルターパイプ開発のほか、クルマへの取付部品の見直しや高剛性材料の採用など、さまざまな新技術を取り入れて軽量化を実現

※1 CAE…Computer Aided Engineering=コンピューターによる設計支援

また、クルマの電動化に伴うPHEV※2の拡大を見据え、現在の主流である鉄製燃料タンクの樹脂化に向けて、技術開発を進めています。これによってクルマを軽量化し、燃費向上に寄与していきます。



PHEVではガソリンが使われない期間が長くなることから、タンクの内圧が高まる。樹脂製のタンクボディーでこの高圧密閉に対応するため、補強構造の最適化などの技術開発を進める

※2 PHEV…プラグインハイブリッド車

● サンルーフ

ヤチヨのサンルーフは、部品の複合化や構造の最適化などによって部品点数を低減するなど、環境に配慮して設計・製造されています。

現在は開口部やガラスエリアの大きいパノラマサンルーフが主流となりつつあり、ヤチヨのパノラマサンルーフは開口面積あたりの重量において、世界トップクラスの軽量を実現しています。



Hondaの新型CR-Vに採用されたパノラマサンルーフ

■開口面積あたりの重量比較(他社製品比)



● 高压容器

来る水素社会を見据え、ヤチヨは水素ステーション用の蓄圧器、FCV※3用の水素高压タンクを開発しています。蓄圧器においてはNEDO※4との共同研究を終え、今後は量産技術の開発を加速し、安全・軽量・廉価における技術をさらに高めていきます。



FCV用水素タンク
今後は量産技術の開発を進める



水素ステーション用蓄圧器
リアルスケールと呼ばれる4mの開発品

※3 FCV…Fuel Cell Vehicle=燃料電池車

※4 NEDO…国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

● 樹脂部品・CFRP※5製品

ヤチヨは、インストルメントパネルやバンパーなどの樹脂部品を長く手がけてきました。そのノウハウを活かし、クルマの軽量化に向けて、ボディー外板部品の樹脂化における技術開発を進めています。

また、陸上競技用車いすで蓄積してきたカーボン技術を活かし、クルマのボディー骨格や軽量カーボンルーフなどの量産技術の開発を着々と進めており、クルマの軽量化に寄与していきます。



カーボン製の陸上競技用車いす「極<KIWAMI>」

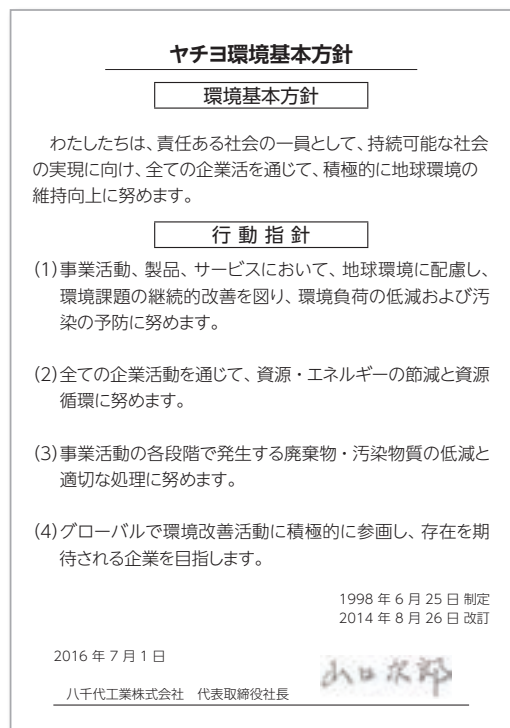


ヤチヨブランドの商品として発売を目指す軽量カーボンルーフは、純正ルーフ(幌タイプ)に対し約20%軽量

※5 CFRP…Carbon Fiber Reinforced Plastics=炭素繊維強化プラスチック

ヤチヨ環境基本方針

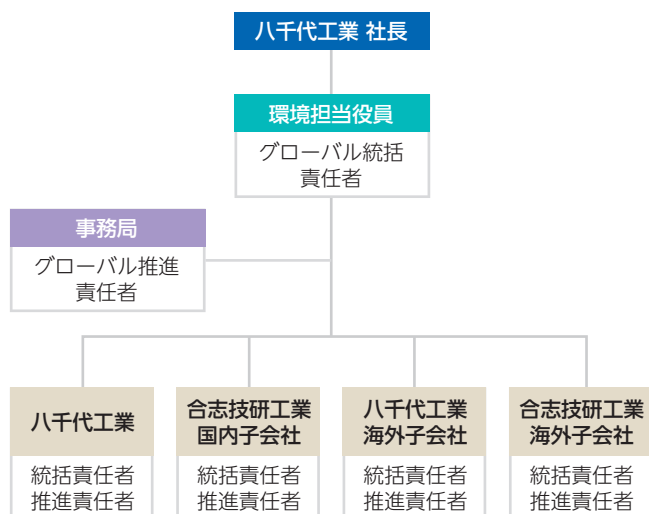
ヤチヨは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



環境マネジメント体制

グローバルヤチヨとして環境への取り組みをさらに迅速なものとするため、環境担当役員および事務局との連携強化を目的とし、すべての事業所と直結の体制としました。

各事業所に統括責任者と推進責任者を配置し、海外事業所においては現地法人社長を統括責任者としています。



日本での環境保全活動は、各事業所において決定される環境中期計画と年度目標をもとにした環境マネジメントプログラムに基づいて進められています。

気候変動への取り組み

近年、地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、自社領域におけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、スコープ3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、温室効果ガスの低減に取り組んでいきます。

● 2017年度 温室効果ガス排出量

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

GHGプロトコル		排出量
スコープ1	エネルギー起源	6,981 t-CO ₂
	非エネルギー起源	804 t-CO ₂
スコープ2	間接排出	19,032 t-CO ₂
スコープ1+スコープ2 合計		26,817 t-CO ₂
スコープ3	カテゴリ1の一部	3,744 t-CO ₂
	カテゴリ9	1,112 t-CO ₂

※スコープ1 非エネルギー起源の排出は、第一種特定製品（フロン法定漏えい量）、第二種特定製品（カーエアコンガス充填時漏えい量）および工業用ドライアイス

※電力換算係数は、国内固定係数0.378を使用

※スコープ3 カテゴリ1は、サプライチェーン内における外作、構成品を対象として集計

<用語の説明>

GHGプロトコル …… 温室効果ガス（Greenhouse Gas）排出量の算定と報告の基準

スコープ…………… 温室効果ガス排出内容の定義

- ・スコープ1（直接排出量）＝ 自社の工場、オフィス、車両など
- ・スコープ2（エネルギー起源間接排出量）＝ 電力など自社で消費したエネルギー
- ・スコープ3（その他の間接排出量）

カテゴリ…………… スコープ3を15項目+その他（任意）に分けたもの

● CO₂排出量 低減施策

事業環境の変化に影響されにくい削減管理として、施策によって低減したCO₂排出量を把握できるようにしています。

八千代工業 国内事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。主に、エネルギー効率の向上として高効率の新設備への更新、およびロス削減として既存設備の改善を実施し、環境に対するマナーとして取り組む地道な施策も含め、99施策を展開しました。

管理項目	目 標	実 績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	266 t-CO ₂ /年	511 t-CO ₂ /年 (99施策)

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

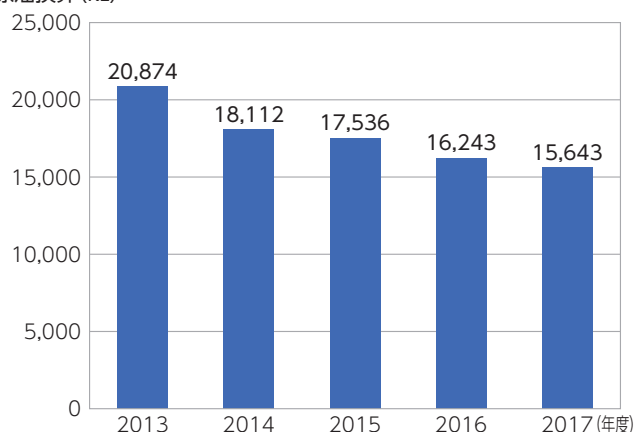
省エネルギー

2017年度のエネルギー使用量は、原油換算値で15,643kLとなり、前年度比96.3%となりました。

原単位は、対前年度比98.1%、5年度間平均原単位変化において99.6%となりました。

今後、省エネ法の努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。

原油換算 (kL)

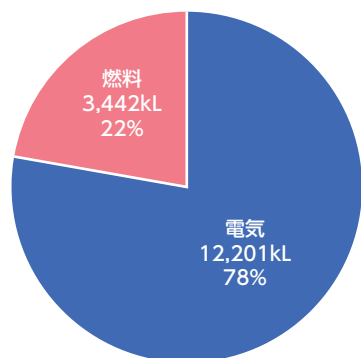


対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

※省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）努力目標
原単位改善率平均1%

※四日市製作所の2018年3月分のエネルギー使用量は、事業分割子会社化により集計対象外（省エネ法における法人単位の規制による）

【燃料と電気の比率】



マテリアルフロー

事業活動（研究開発、営業、購買、製造、管理）全般における資源・エネルギーの投入量（Input）と排出量（Output）を把握し、事業活動に役立てていきます。

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

Input

区 分	項 目	使用量
エネルギー	電力(買電)	50,351 MWh
	灯油	33 kL
	軽油	0 kL
	LPガス	12 t
	都市ガス	3,064 千m ³
	電力(太陽光)	19 MWh
水資源	地下水	69,046 m ³
	工業用水	15,493 m ³
	上水	63,645 m ³
化学物質	取扱量	323 t
原材料	鋼材	627 t
	樹脂材	7,411 t



事業活動



Output

区 分	項 目	使用量
排出	CO ₂	26,817 t-CO ₂
	NO _x	1.42 t
	SO _x	0.01 t
	排水	81,466 m ³
化学物質	VOC	279 t
	PRTR対象物質	147 t
廃棄物	産業廃棄物	705 t
	直接埋立処分	0 t
	社外リサイクル	705 t
	有価物	4,025 t

<用語の説明>

NO_x …… 窒素酸化物
 SO_x …… 硫黄酸化物
 VOC …… Volatile Organic Compounds
 ＝揮発性有機化合物
 PRTR …… Pollutant Release and Transfer Register
 ＝化学物質排出移動量届出制度

オゾン層保護・地球温暖化への対応

● 第1種特定製品

ヤチヨでは、第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行い、全事業所でフロン排出抑制法への対応を行っています。2017年度の算定漏えい量について、下表の通り報告義務はありませんでした。

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R11	52.00 kg	4,750	247.0 t-CO ₂
R22	10.15 kg	1,810	18.4 t-CO ₂
R123	50.00 kg	77	3.8 t-CO ₂
R404A	0.24 kg	3,920	0.9 t-CO ₂
R410A	3.50 kg	2,090	7.3 t-CO ₂
R507A	0.90 kg	3,990	3.6 t-CO ₂
算定漏えい量			281.0 t-CO ₂

事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000 t-CO₂（GWPによるCO₂換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となる。

● 第2種特定製品

四輪車へのエアコンフロン注入時の漏えい

算出式：漏えい量 = 生産台数 × 排出係数 × GWP

対象：四日市製作所

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R134a	361.50 kg	1,430	517.0 t-CO ₂

<用語の説明>

GWP …… Global warming Potential = CO₂を1とした場合の温暖化影響の強さを表す値

汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し、浄化装置にて浄化を継続して行っています。

1年に2回、浄化状況について測定を行い、市に報告を行っています。

法規制への対応

● 環境関連の法規制順守状況

2017年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

● 環境関連の法の執行状況

省エネ法において、2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度において、2017年度Bクラス評価を受け、経済産業省よりエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づく報告の徴収を受けました。クラス分けの判断基準となる2016年度定期報告の結果は、原単位対前年度比94.2%、5年度間平均原単位変化109.2%でした。

● 環境に関する苦情・トラブル

2017年度、地域などからの苦情はありませんでした。

地域などから苦情を受けた場合、全社で情報共有を行い、同様の環境に関する苦情・トラブルの再発防止を図っています。

2017年度 環境目標

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動(地球温暖化)、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

項 目		目標値
エネルギー起源CO ₂ 総排出量※ ¹		37,500 t-CO ₂ 1990年度比 23%減
CO ₂ 排出量 原単位※ ² (付加価値額原単位)	部品事業	2013年度比 4%減
	完成車事業	
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)		266 t-CO ₂
VOC排出量 原単位※ ³ (塗装面積当たり原単位)	部品事業	前年度比 1%減
	完成車事業	
水資源使用量 原単位※ ³ (付加価値額原単位)	部品事業	前年度比 1%減
	完成車事業	
廃棄物量 原単位※ ³ (付加価値額原単位)	部品事業	前年度比 1%減
	完成車事業	

電力係数は、日本固定1MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

- ※1 CO₂総排出量は、業界団体（一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会）の公表値2020年目標28%削減（1990年比）に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施
- ※2 CO₂排出量原単位の目標は、本田技研工業株式会社の指標に基づき、基準年度を2013年度に設定
- ※3 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定

2017年度 環境実績

2017年度の環境実績は、下記の通りでした。

部品事業におけるCO₂排出量原単位、廃棄物量原単位が悪化しました。

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所、四日市製作所

達成度判定：○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満

項 目		実績値	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量		26,166 t-CO ₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	2.6%増	○
	完成車事業	19.4%減	○
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.5%相当分)		511 t-CO ₂	○
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	部品事業	0.7%増	○
	完成車事業	5.0%増	○
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	8.1%増	△※ ¹
	完成車事業	20.1%減	○
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	部品事業	24.6%減	○
	完成車事業	10.5%減	○

※1 柏原工場における漏水により悪化

2018年度 環境目標

2017年度から2019年度の中期3カ年環境目標を設定しました。2018年度の目標は下記の通りとなります。

今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて、環境活動を企業活動の中核課題とし、活動を強化していきます。

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

項 目	目標値
エネルギー起源CO ₂ 総排出量※ ¹	22,500 t-CO ₂ 1990年度比 25%減
CO ₂ 排出量 原単位※ ² (付加価値額原単位)	2016年度比 2%減
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	150 t-CO ₂
VOC排出量 原単位※ ³ (塗装面積当たり原単位)	前年度比 1%減
水資源使用量 原単位※ ³ (付加価値額原単位)	前年度比 1%減
廃棄物量 原単位※ ³ (付加価値額原単位)	前年度比 1%減

電力係数は、日本固定1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

※1 CO₂総排出量は、業界団体（一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会）の公表値2020年目標28%削減（1990年比）に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施

※2 CO₂排出量原単位の目標は、本田技研工業株式会社の指標に基づき、基準年度を2013年度に設定

※3 VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、毎年、連続して低減していきたいという観点から、前年度比1%減を設定

環境マネジメントシステム

環境活動においては、国際規格へのコミットメントが企業のCSRであるとの考えから、2017年度は新たに、海外子会社1社が、ISO14001規格の認証を取得しました。

2017年7月

ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア(インドネシア)

ISO14001認証取得は、国内事業所2地区、国内子会社1社、海外子会社11社となりました。

八千代工業 国内事業所の認証区分は、以下の通りです。

- ・柏原地区（本社、柏原工場、埼玉研究所）
- ・鈴鹿工場（鈴鹿工場、亀山事業所）

環境教育

2017年度は、新認定管理職を対象として、全社環境事務局担当者が、世界の潮流であるパリ協定やSDGsを踏まえた環境講話を実施しました。

今後、マネジメント層として活躍する従業員は、「事業活動そのものによって環境・社会に対して価値創造していくことがサステナビリティへの取り組みである」ことを理解し、活躍していく必要があります。

開 催	環境講話テーマ	受講人数
2015年度 (12/9)	水素エネルギーの利用	58名
2016年度 (11/26)	埼玉県における土壌・地下水汚染の現状と取り組み	50名
2017年度 (6/12)	環境に関する枠組みにおける世界の合意と企業の役割	新認定 管理職 14名

世界が合意したSDGsの17の目標



地域セグメントごとの環境データ推移

集計範囲は、すべての環境データにおいて右の通りです。

【日本】

四日市製作所^{※1}
株式会社ワイジーテック^{※1}
株式会社社会志テック

～2017年度
～2014年度
2016年度～

【米州】

YOM^{※2} ～2013年度

【アジア】

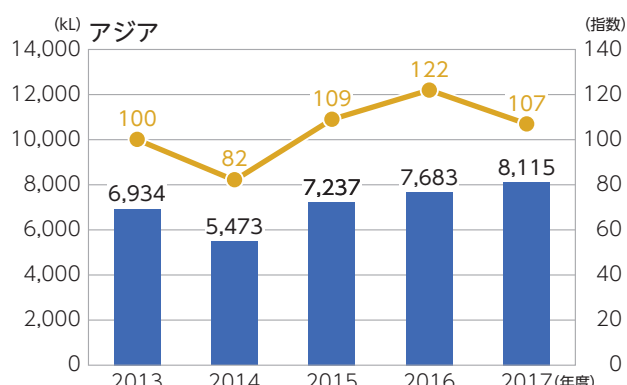
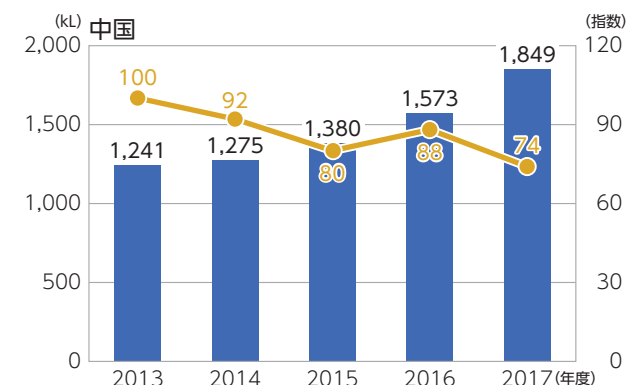
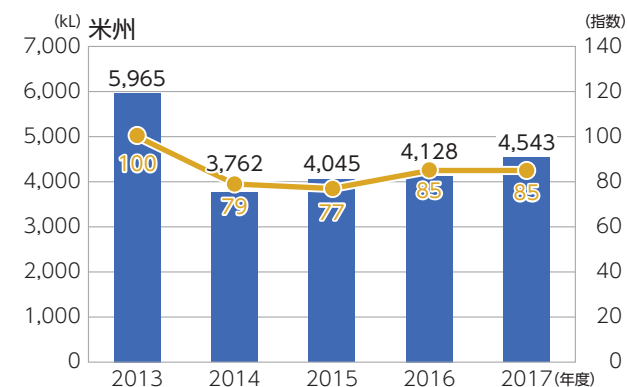
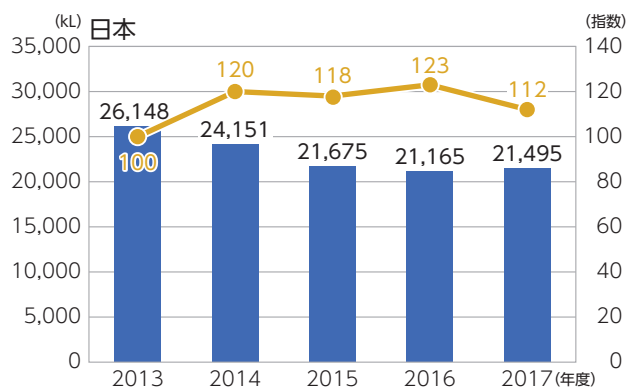
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド 2016年度～

※1 四日市製作所（2018年3月～八千代工業四日市製作所株式会社）および株式会社ワイジーテックは、それぞれ2018年4月、2016年1月に事業譲渡

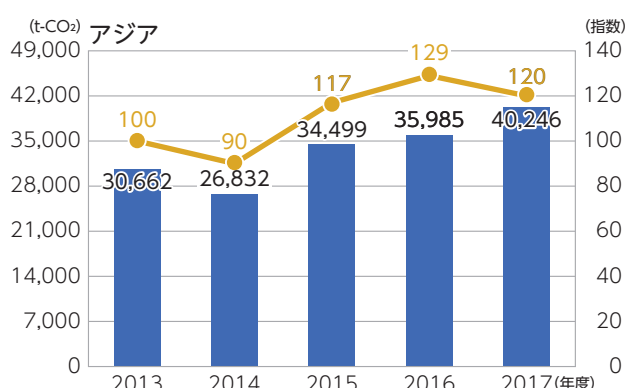
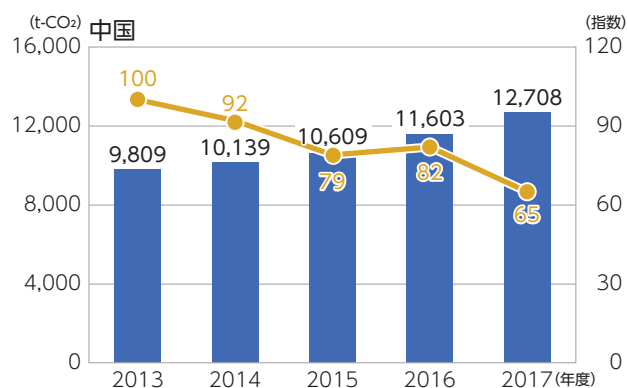
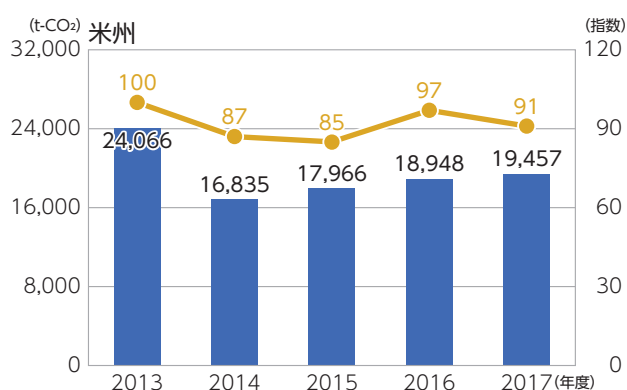
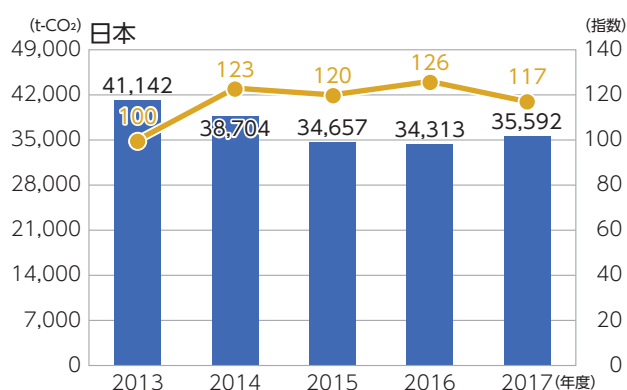
※2 YOM（ヤチヨ オントリオ マニュファクチャリング エル エル シー）は2014年6月に事業譲渡

凡例：■各実績データ ●2013年度基準の指数

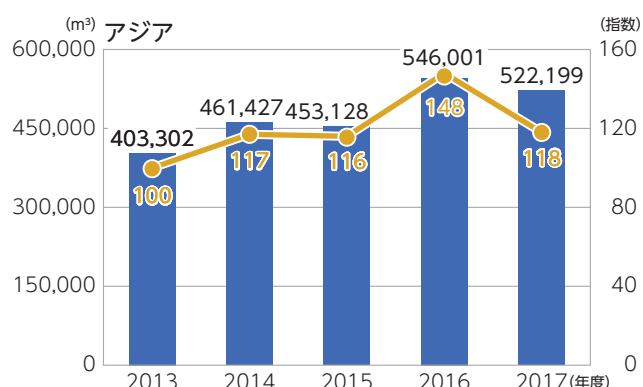
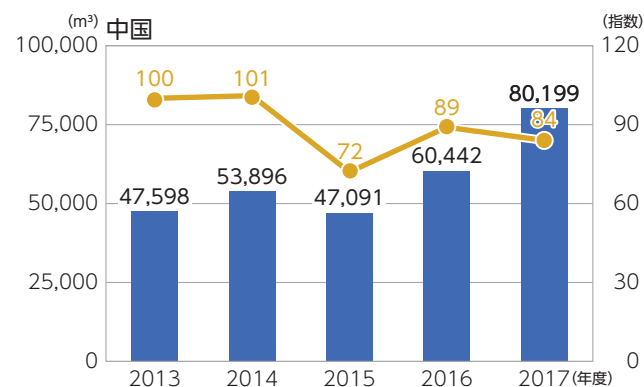
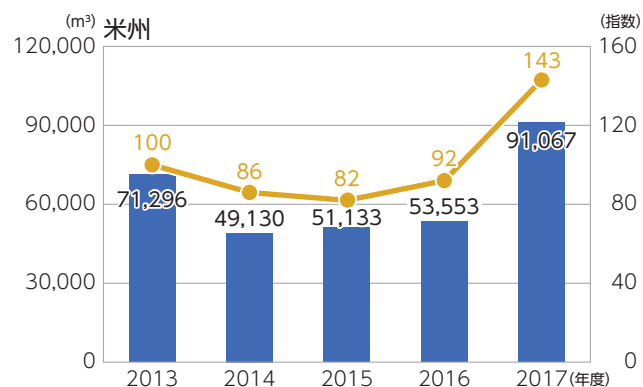
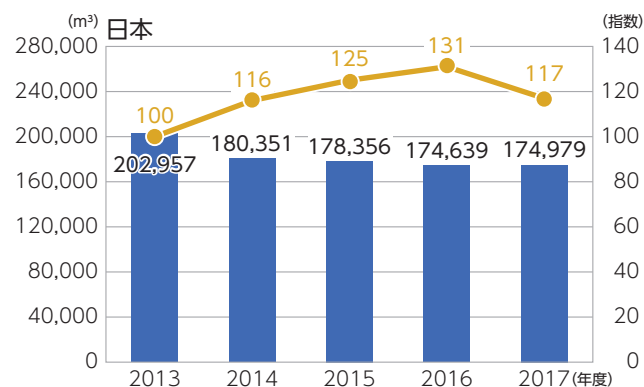
● エネルギー投入量



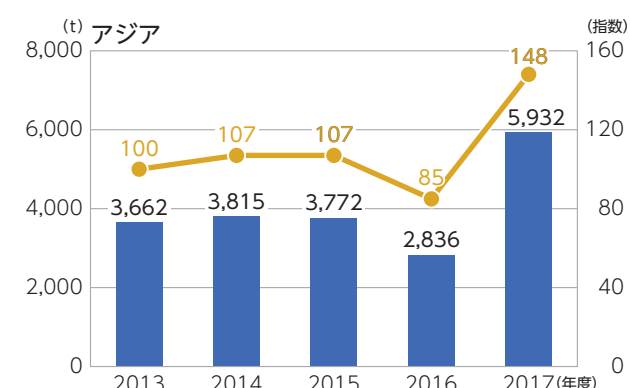
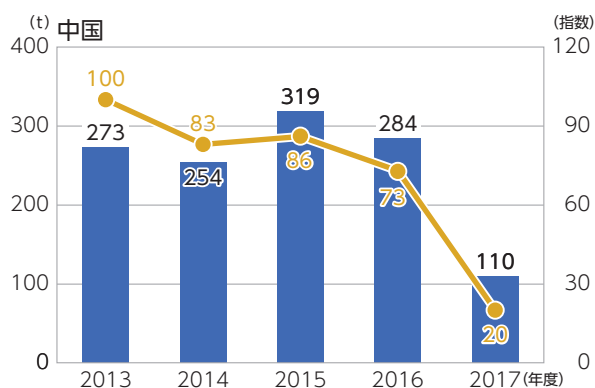
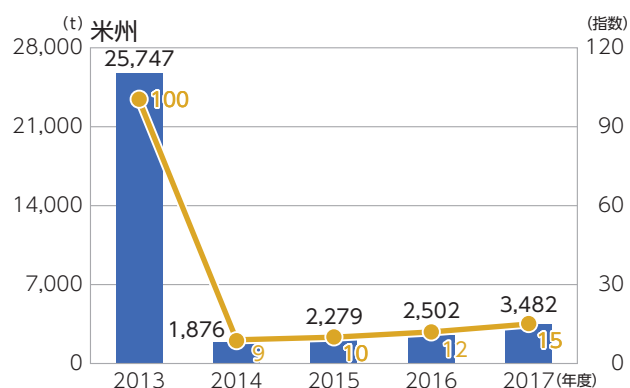
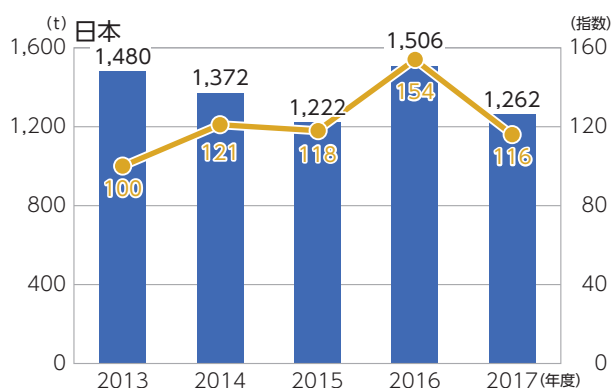
● CO₂排出量



● 水資源使用量



● 廃棄物量



すべての事業所のエネルギーと廃棄物量

● 日本

■ 本社・柏原工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	11,969 MWh	処分量	114 t
プロパンガス	8,045 kg		
都市ガス	345 千m ³		
水	27,222 m ³	従業員数	367 名
		臨時従業員	51 名

■ 亀山事業所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	8,402 MWh	処分量	150 t
都市ガス	366 千m ³		
水	12,880 m ³	従業員数	128 名
		臨時従業員	7 名

■ 埼玉研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,808 MWh	処分量	33 t
プロパンガス	720 kg		
水	6,092 m ³	従業員数	163 名
		臨時従業員	21 名

■ 合志技研工業株式会社

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	6,137 MWh	処分量	443 t
プロパンガス	200,583 kg		
都市ガス	333 千m ³		
灯油	340 kL		
ガソリン	9 kL		
軽油	1 kL		
A重油	675 kL		
水	19,917 m ³	従業員数	299 名
		臨時従業員	11 名

■ 株式会社合志テック

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,592 MWh	処分量	90 t
プロパンガス	112 kg		
灯油	16 kL		
ガソリン	8 kL		
軽油	8 kL		
水	2,707 m ³	従業員数	92 名
		臨時従業員	66 名

■ 鈴鹿工場

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,553 MWh	処分量	39 t
都市ガス	539 千m ³		
水	17,029 m ³	従業員数	68 名
		臨時従業員	9 名

■ 栃木研究所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,303 MWh	処分量	97 t
プロパンガス	2,942 kg		
灯油	33 kL		
水	7,893 m ³	従業員数	142 名
		臨時従業員	46 名

■ 四日市製作所

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	18,316 MWh	処分量	271 t
都市ガス	1,814 千m ³		
水	77,068 m ³	従業員数	484 名
		臨時従業員	113 名

■ 株式会社ウエムラテック

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,715 MWh	処分量	24 t
プロパンガス	16,683 kg		
灯油	2 kL		
ガソリン	8 kL		
軽油	2 kL		
水	4,171 m ³	従業員数	107 名
		臨時従業員	93 名

※ すべての事業所における従業員数は、2018年3月末現在

● 米 州

■ ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド(米国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,257 MWh	処分量	6 t
天然ガス	24 千m ³		
水	470 m ³	従業員数 臨時従業員	58 名 0 名

■ エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド(米国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,909 MWh	処分量	838 t
プロパンガス	12,016 kg		
天然ガス	553 千m ³		
軽油	0.6 kL		
水	13,878 m ³	従業員数 臨時従業員	312 名 47 名

■ ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド(米国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	20,841 MWh	処分量	1,414 t
プロパンガス	58,789 kg		
天然ガス	152 千m ³		
軽油	9 kL		
水	51,310 m ³	従業員数 臨時従業員	205 名 32 名

■ ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー(米国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	9,277 MWh	処分量	298 t
軽油	0.4 kL		
水	7,073 m ³	従業員数 臨時従業員	143 名 0 名

■ ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デ シー ブイ(メキシコ)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,548 MWh	処分量	691 t
プロパンガス	1,329 kg		
軽油	1.8 kL		
水	16,493 m ³	従業員数 臨時従業員	160 名 0 名

■ ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ(ブラジル)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,169 MWh	処分量	235 t
プロパンガス	2,340 kg		
軽油	0.1 kL		
水	1,843 m ³	従業員数 臨時従業員	44 名 0 名

● 中国

■ 八千代工業(中山)有限公司(中国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	9,560 MWh	処分量	39 t
天然ガス	40 千m ³		
ガソリン	40 kL		
軽油	0 kL		
水	44,285 m ³	従業員数 臨時従業員	426 名 0 名

■ 八千代工業(武漢)有限公司(中国)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	9,508 MWh	処分量	71 t
天然ガス	27 千m ³		
ガソリン	1 kL		
軽油	0 kL		
水	35,914 m ³	従業員数 臨時従業員	704 名 13 名

● アジア

■サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド(タイ)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	10,861 MWh	処分量	479 t
プロパンガス	158,704 kg		
水	98,264 m ³	従業員数	389 名
		臨時従業員	0 名

■ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベートリミテッド(インド)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	2,903 MWh	処分量	— t*
ガソリン	16 kL		
軽油	98 kL		
水	5,632 m ³	従業員数	41 名
		臨時従業員	29 名

※ 地域行政によって一般廃棄物となっていることによる

■ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	1,930 MWh	処分量	23 t
軽油	0.3 kL		
水	2,435 m ³	従業員数	57 名
		臨時従業員	0 名

■サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド(タイ)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	19,085 MWh	処分量	1,539 t
プロパンガス	13,248 kg		
灯油	14 kL		
ガソリン	45 kL		
軽油	1 kL		
水	217,279 m ³	従業員数	885 名
		臨時従業員	391 名

■ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド(ベトナム)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	19,841 MWh	処分量	2,379 t
プロパンガス	579,570 kg		
ガソリン	50 kL		
軽油	52 kL		
水	129,897 m ³	従業員数	1,342 名
		臨時従業員	72 名

■ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド(フィリピン)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	3,935 MWh	処分量	720 t
プロパンガス	102,523 kg		
ガソリン	14 kL		
軽油	15 kL		
重油	5 kL		
水	82,948 m ³	従業員数	388 名
		臨時従業員	253 名

■ゴウシ インディア オートパーツ プライベートリミテッド(インド)

《エネルギー資源》		《廃棄物》	
電気	4,758 MWh	処分量	792 t
軽油	980 kL		
水	2,505 m ³	従業員数	293 名
		臨時従業員	276 名



環境報告書 2018

■編集

全社環境委員会

委員長 北村 哲也

事務局 倉田 周市

経営戦略室 広報ブロック

奥田 達之

■お問い合わせ

八千代工業株式会社 管理本部 総務部

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL 04-2955-1211 (代表)